

1・本園の教育方針

- (1) カトリックの愛の精神に基づく道徳教育を行う。
- (2) 教育の第一責任者である両親に協力し、助成するための教育に力を注ぐ
- (3) 集団生活の体験を通して、共同生活と神から賦与された成長の法則に従って自ら完成しようとする幼児の自主自立を助け、調和のある精神を養う。

2・本年度重点的に取り組む目標・・・表内赤文字

3・評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標		
園内研修を継続的に実施し保育者がお互いに学び合う	4	研修での学びを実践し、振り返りを行い、改善点を考え保育に活かす	3.1	4	研修での学びや、お互いの振り返りを保育に活かすようになり、さらに積極的に学びに向かい、深めるようになった。	3.1	B3.1	・園内研修で、連絡帳の書き方、マナー、身だしなみ等、他の先生たちの意見を聞きそれぞれの考えを分かち合え、学びにつながったのが良かった ・学んだことを振り返り、日々の保育の意識を高めることができた ・与えられた園内研修では、学びも多く保育に活かすことができた。しかし、自らの学びへはやや積極性・自主性に欠け、振り返りの共有ももう少し時間を取るとよかった。
	3	自ら学びたいことを見つけ、見つけた遊びや、時事問題・良い教材を伝え合う		3	時事問題に目を向けるようになり、積極的に気付きや学びを発言しお互いを認め合うようになった			
	2	研修で学んだことを共有し合う		2	教師間で学びを共有し合うようになった			
	1	園内研修に意欲的に参加する		1	職員同士の対話が増えた			
子どもたちが伸び伸びと遊び、自己発揮できる環境構成の工夫	4	週ごとに子どもの遊びを振り返り、子どもの心が動く素材や自然物、遊ぶ用具の種類や位置の改善につなげる	2.8	4	教師が子どもたちの発言を聞き、様子を捉え、子どもたちがやってみようとすることを実現できる環境構成になった	3.4	B3.2	・子どもたちがどんな遊びに興味があるか、記録を取り、環境構成を計画的に行った。但し、遊びの深まりや、持続がうまくできなかったのは今後の課題である。 ・同じような環境構成になっていたので、子どもたちが遊びたくなるような、発想を膨らまし工夫して遊べるような、準備を行い、子どもたちのその時の姿を捉えながら、環境構成に活かしたい。
	3	振り返りの記録を生かし、子どもたちがじっくりと遊びこめる環境を整える		3	子どもたちが遊びを見出し、発展させるようになった			
	2	子どもたちの好きな遊びや、心動かされている物を捉え、記録する		2	子どもたちの遊びが持続するようになった			
	1	子どもたちと一緒に遊びこむ		1	自分のしたい遊びを見つけ取り組もうとするようになった			

ち 合 う 子 ど も	異年齢活動を通して、交流を深め育ち合う	4	自然と一緒に遊べる環境を設定し、子どもの育ちを振り返り、計画の改善を図る	3	4	年上の学年に憧れを持ったり、応援したりするようになった。また、年下の友達に優しくお世話をし思いやりの心が育まれた	3.8	A3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、少しずつ元々おこなっていた触れ合いの時間を取るよう意識できたことにより、一緒に活動する時間も増え、自然と朝の身支度を手伝ったり、困っているときに声をかけたりできるようになった。 ・他学年の活動を見合うことで、お互いを応援したり、憧れを持ったり、心の育ちが見られた。
		3	異年齢児と関わる活動を計画・実践し、育ちを記録する		3	困っている人がいたら進んで声をかけたり、助けたりするようになった			
		2	異年齢児と一緒に朝の身支度や一緒にご飯を食べる機会を設ける		2	異年齢児の様々な友だちと仲良く遊ぶ姿が見られるようになった			
		1	他学年の活動を見に行く		1	異年齢児と関わるようになった			
幼 児 の 安 全 障 害 な 園 生 活	子どもたちが自分のいのちを守ることへの意識を高めるための保育の工夫	1	月に1回程度避難・防災訓練を行い、振り返りをする	3.6	1	避難防災訓練に真剣に取り組むようになった	3.8	A3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を定期的に、また色々な想定をして行えたのが良かった。また、全体の中で話した後、各クラスでも子どもたちと振り返りができ子どもたちも意識をもって参加できていた。 ・誕生会や七五三、家族の日など様々な行事を日常にもつなげ、命のつながりを知り、家族、周りの人への感謝の心もつ保育を行え、子どもたちも自然と「おめでとう」「ありがとう」が言えるようになった ・季節の生き物を発見したり、植物栽培を心を込めて行っていた。
		1	遊具の使い方・園外・園内での遊び方を定期的に伝える		1	友だちと声を掛け合いながら、遊具や、道具の使い方のルールを守ってあそぶようになった			
		1	季節の花を植えたり、生き物に触れたりする保育を計画する		1	動植物のお世話を心を込めて進んで行うようになった			
		1	行事や誕生会を通して、一人一人の命に感謝する保育を展開する		1	友だちや、家族、周りの人を大切に思いやりを持って関わるようになった			

○総合的な評価結果と今後の課題 評価・・・A

- ・ **教師の質の向上のために保育を振り返り、園内研修の充実を図る。**・・・総括評価はBとなっているが、短い時間でも分かち合うことを大切にし、共有できたことは良かったと思う。また、学んだことを、振り返ることで、その意識も高めることが出来た。今後も様々な分野での研修を行っていく。
- ・ **伸び伸びと育ちあう子ども。**・・・教師の取り組みとしては、子どもの遊びの様子を記録にとり、子どもの興味が深まるための環境構成を考えたが、持続することが難しいときもあった。しかし、子どもたちの姿としては、ある環境の中で、やってみたいことを見つけ、楽しむ姿も見られた。また、異年齢の友だちとの交流は教師間で計画し、体操、お弁当、リズム遊び等一緒に楽しむことで、自然な縦割りの姿が見られ、年少者を思いやる姿や、年長児にあこがれる姿が見られた。引き続き無理なく縦割りの活動を入れていきたい。
- ・ **幼児の安全な園生活の保障**・・・避難訓練を段階を踏んで繰り返し行ったことで、子どもだけでなく教師の防災意識が深まった。また、植物や生き物のお世話、家族の日、祖父母様の日、七五三などを通して、いのちのつながりについて考え、大切にしたい気持ちの育ちに繋がった。

学校関係者評価委員会の評価 委員会実施日 令和7年3月19日

○園全体が一人一人の子どもをよく見て下さり、子どもの気持ちや思い、考えを先生方が尊重し、寄り添い、時にはクラス全体の事として対応して下さった。

○生活発表会では子どもたちの「やりたい！」という気持ちを引き出し、取り入れたことにより、自分たちで創り上げていく喜び、達成感を経験することが出来ていたように思う。

○避難訓練を定期的に行って下さり、子どもたちの意識も変わっていった。いつ、どこで起こるか分からないため、避難経路を保護者に知らせてもらいたい。

○家庭教育学級が今年度は行われ、保護者自身の育児への意識が変わった為、今後も続けて頂きたい。

○園外保育や行事を通して、自然や日本の伝統行事にも触れることができ、保育の中にも遊びや製作として取り入れていただいた事によって四季を身近に感じる事が出来ていた。

○野菜を栽培し、育てる喜びを感じ、収穫して自分たちで調理する事により、苦手なものが食べられるようになるなど、家庭では出来ない食育に楽しく取り組むことが出来ていた。

○次年度以降も厳しく予想されている異常気象に対し、気温が高くなる時期に行う園外活動においては、熱中症警戒アラート、周辺の学校等の対応を参考に、今後も柔軟に対応していただきたい。